

ぽかぽか 初夏号

三川町公民館図書室だより

2025.6.1

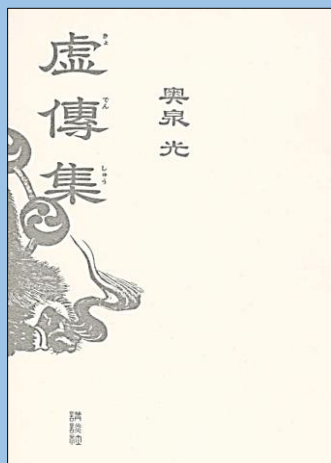


奥泉光氏 第49回川端康成文学賞受賞 おめでとうございます

2025年4月3日、第49回川端康成文学賞の受賞作品が発表され、**三川町出身の奥泉光氏の「清心館小伝」**が栄えある栄冠に輝きました！

この作品は「新潮」2024年6月号に掲載されたもので、日本で最も権威ある短編小説として知られる川端康成文学賞の歴史に新たな1ページを刻むこととなりました。

川端康成文学賞は、日本人初のノーベル文学賞受賞者である川端康成の遺志を受け継ぎ、その賞金を基金として創設されました。短編小説を対象とする賞としては日本最高峰の地位を誇り、50年にわたる歴史の中で、大江健三郎や筒井康孝、山田詠美など、日本を代表する作家たちが受賞してきました。



三川町公民館図書室にも奥泉光氏のコーナーがあります。所蔵している本もたくさんあります。「清心館小伝」が掲載されている「**虚傳集（きょでんしゅう）**」も所蔵していますので、是非ご覧ください。

新着本です♪



『ねんねおばけ』



『生きてるって
どういうこと』



『あたらしい
ともだち』



『ながいながいあさごはん』



『がっこうにま
にあわない』
ザ・キャビン
カンパニー作

きょうはぜったいにち
こくできないんだ。でも
ゆくてにはじゃまするも
のばかり。おとこのこは
まにあうのか。つうがく
ろがぼうけんのたびにか
わる。にぎやかでハッピ
ーなえほんです。



『この国のかたちを
見つめなおす』
加藤陽子：作

日本近現代史の泰斗、東京
大学教授の加藤陽子氏が、国
家と国民、東日本大震災、天皇
と天皇制、戦争の記憶、世界と
日本、そして日本学術会議会
員任命拒否問題を論じる。戦
後 80 年を前に話題のベスト
セラー。



『署長サスピ
ション』
今野敏：作



『氾濫の家』
佐野広美：作



『受け手のいない祈
り』朝比奈秋：作



『闇をわたる』
堂場瞬一作



『春立つ風』あさの
あつこ：作



『氏家京太郎奔る』
中山七里：作



『人生劇場』
桜木梨乃：作



『ああうれしい』
畠中恵：作



『記念日』青山
七恵：作



『部下をもったらいち
ばん最初に読む本』
橋本拓也：作

マネジメントは技術。学べば誰もが
取得できるもの。そのノウハウ
「リードマネジメントのすべて」が
詰まった著者は、2万人の研修実績
を誇るトップコンサルタントであ
る。著者がたどり着いた、心理学を
ベースにした新しいマネジメント
の手法をまとめた一冊。全マネジャ
ーの必読書です。